

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270301286		
法人名	社会福祉法人秋葉会		
事業所名	グループホーム桔梗野の家		
所在地 (電話番号)	〒039-2241 青森県八戸市市川町字桔梗野15-7 (電話) 0178-21-3561		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 8日	評価確定日	平成 19年 11月 26日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要 地域福祉権利擁護 地域福祉権利擁護事業を現業として行っている

建物構造	木造亜鉛メッキ銅版葺造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬季7,500 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>地域の中に溶け込んでいる様子が近隣住民とのかかわりから窺える。利用者の外出への取組みや支援も積極的に行われている。ホーム内は家庭的な雰囲気の中で自然に自分の役割を見出し、実践する共同生活となっている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は、要改善点なし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価を行ない、外部評価項目にない項目の自発的な取り組みにつなげている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員の参加人数も多く、ホームの運営内容について説明されている。ホームの状況についての連絡のみならず高齢者福祉についての情報発信の場として有意義な会議となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会の際に声をかけるようにし家族からの意見に対応しようとする姿勢がある。職員は担当以外の利用者家族であっても報告、連絡ができるよう情報の共有に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会長、婦人会の会長との連絡体制を積極的に行っている。警察、消防との関係作りにも余念がない。地域での行事(祭り、敬老会等)への参加も精力的に行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が存在する地域の中で地域住民との関係作りに重点が置かれている。事業所の理念が日々の生活での近所付き合いに表れている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に研修で全職員に周知している。職員は理念が実際の生活の中でどのように具現化されるべきなのかを理解している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	自治会長さんや婦人会等の主だった団体との交流に力を注いでいる。近隣住民からの訪問や散歩中の挨拶なども日常的に行われており、近隣との良好な関係がつけられている。地域にグループホームがあることを認知してもらえるよう積極的な活動も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の内容は全職員に報告され、外部からの視点ということで評価内容や結果について改善にむけて取り組んでいこうという姿勢がある。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域にグループホームで何が行われていて、どのような点で協力を求めているのか、地域からグループホーム、グループホームから地域への情報の交換がなされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村が実施する集団指導等に積極的に参加している。介護保険担当課以外の課についても相談して問題解決に向けて取り組んでいる。運営推進会議の結果についても書面での提出を行い関係を密にしている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度を利用している利用者はいない。</p>		<p>地域福祉権利擁護事業を現業として行っている社会福祉協議会の職員に研修依頼をする等、定期的に職員が集まる研修の場を増やし制度の理解と全職員が対応できる体制を目指すことを期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングや勉強会等で理解や遵守に向けた取り組みをしている。</p>		<p>事業所内での言葉遣いのみならず、必要な金銭の受け渡しができない等、利用者の環境にも目を向けた取り組みとなるよう研修会等で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、広く虐待をとらえる視点作りに期待します。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に必ず説明を行い同意を得ている。入院時の場合等についても重点をおいて説明が行われている。その後の問い合わせにも対応し疑問な点について納得してもらえるよう取り組まれている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、モニタリング表を家族に送付し、面会時には家族に状態の報告をしている。担当者以外の職員もケア会議、連絡ノートで情報を共有している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に声をかけて確認している。また法人で発行している広報誌のコーナーで募集する等意見の収集に積極的に取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各事業所ごとで人員を確保し事業所間での異動が極力無いように配慮している。実際に異動がないため特に引き継ぎの必要性は発生していない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を研修会に参加させ、他職員の研修内容については復命書の閲覧や伝達研修を行っている。外部研修会の内容に応じた適任者をその都度選び、参加させている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は法人内の運営会議、サービス調整会議と月二回開催され出席している。職員は市町村でのグループホーム協議会に参加している他、法人内のグループホームで一時的な体験勤務時活動も実施されている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の利用前の見学、担当ケアマネジャー、家族にも必ず来てもらうようにしている。環境の変化に馴染むまでの工夫としては外出や面会の協力も依頼し、実施して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方や切り方等、主に食事を作る、食べる機会を通して利用者から教えてもらう事が多く相互に関係し合う状態が日常的にある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメント表(センター方式)を使用して本人の思い意向を確認できるように努めている。情報が少ない場合でも利用してからの本人の要望に気を配り、一人ひとりの状態や希望を聞き環境や関係を構築していく体制ができている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の日常の生活の中から把握できることを含め、家族からも確認をとっている。計画の作成にあたっては全職員が参加しての検討が行われている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しがされている。医療機関退院時には計画を再度検討する他毎月モニタリングが実施されており状態の変化を把握できる取り組みが積極的になされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>負担になりやすい通院の送迎、外泊時の送迎についても実施されており要望に対して柔軟な対応が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他市町村の医療機関であっても本人家族の希望に応じて通院介助が行われている。利用者の負担とならないよう往診も実施されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人家族を含め医師と職員とが退院時に方向性や希望を確認し受け入れ態勢を整えている。状態の報告、変化はその都度説明をしている。医師から観察項目の指示がある場合にも対応し可能な限り本人家族の意向に沿えるようにしたいという方針の中取り組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉使いに気を配り、ふさわしくない場合その都度職員を指導している。広報誌等写真、氏名の取り扱いについては確認し対応している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に左右されず、入浴、外出等利用者本人のペースに合わせてその日を過ごすことができている。あらかじめ計画していることについては前もって説明をし繰り返すことで行動できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を利用者一人ひとりに合わせて提供できている。食事の味や作り方についても会話があり楽しんでいる。食事の準備、後片付けも一緒に行い共同して食生活が営まれている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい利用者から三日に一回の入浴を希望する方までそれぞれの希望にあわせて実際に入浴が行われている。一応の日課はあるものの職員は日課に拘ることなく利用者のタイミングに合わせて支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の職業を生かした取り組み(見回り、たたみ物作業、畑仕事等)、生まれ育った環境や家族兄弟関係に配慮した外出にも取り組んでいる。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや地域のイベントでの外出に積極的に取り組んでいる(外出の延べ回数はほぼ毎日の回数)。事業所独自の行事も月一回は開催されている。日々の外出は利用者同士の間にも配慮されており工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修会を行って身体的なもののほかに精神的な苦痛についても触れている。オムツについても不必要なオムツの使用がないようにオムツ外しにも取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	アラーム等これまで工夫がされているため、日中の施錠はない。ただし、飲食店街が近く、以前乗用車ブレーキのワイヤー切断事件が発生したため、利用者の安全を考えて、19:00～7:00までの時間帯に施錠されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会長に災害時の協力を依頼をしている。火災訓練を年二回実施している。		地域推進会議や町内の集会等でのお願い、実際に合同での訓練実施等、周辺住民からの協力体制を構築する為の活動に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を職員が把握できている。献立についても栄養士からアドバイスをもらう体制が整っており一人ひとりに対応できている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されており定期的な研修で取り上げられている。食中毒についても内容を含み、時期によって提供を避けなくてはならない食材への配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住宅地の中にあるグループホームですぐ隣は地域住民の宅地がある環境。天気の良い日は窓を空け開放的で周辺の工事音や地域にある音が自然と流れてくる生活感がある共有空間となっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたもの、好みのもの、本人の作品があり利用者それぞれの色が居室内にあらわている。</p>		

 は、重点項目。